cinemaz-life §§§§【カラフルタイムズ】映画を見て彩(いろどり)ある生活を§§§§ cinemaz-life

シネマズライフ

2017年9月8日発行 第130号
http://p.booklog.jp/users/rion-takagi

貴樹(たかぎ) 諒音(りおん)

【最近のこれはお見事！】『三つの光』吉田光希監督の作品。三人の人物が持つ《三つ》の何かのお話のようです。

【最近のこれはまずいぞ！】『奥田民生になりたいボーイと出会う男すべて狂わせるガール』説明しずぎの感があるが、いまいちお話のイメージがわかない題名。

映画の風景 日本の風景

※ 宮島 厳島神社 ※

← 夜の厳島神社

『千と千尋の神隠し』という映画があった。こんな映画だ。

荻野千尋・10才。引っ越しの為目的地に向かっていたが、両親と乗っていた車は深い森に迷い込んでしまう。

そこには、不思議な門があり千尋の両親は誘われるようにトンネルの中に。暗いトンネルを抜けるとそこは広い草原。すると両親は子供のようになり、向こうに見える町に入り込んでしまう。怯える千尋でしたが、しかたなく二人について行くと町は無人。しかし、そこは店が並び屋台には暖かく美味しそうな食べ物が並び、父と母は飛びつき食べ始める。正気を失ったように夢中になっている両親に驚く千尋は、まわりの店を見ると同じような状態。いろいろな店が並び、今にも人が出てきそうだが、誰もいない…。あまりの不気味さに怖くなった千尋は、両親の元に戻るとなんと二人は《豚》になってしまっていた。

驚く千尋だがどうする事もできない。ところが夜が更けていくと町には人々が現れ、なぜか千尋の体が消えかけてきて千尋は混乱する。その時突然、ハクという少年が現れ千尋をある場所に連れて行くのだが…。

日本(地球)を人間の都合で汚していくという《深刻な悲劇》を、アニメという作品でユーモアたっぷり描いていて、そのギャップが面白い。

夜になり、神々が集う町は、日本でも神が住む【厳島神社】に似ている。映画では町は決して人間が入ってはいけない場所だったが、【厳島神社】はいつでも参拝者は入れて神様と対話できる場所だ。

特に夜の【厳島神社】は美しい。この美しさを作った平氏とはいえ〈平氏滅亡〉という占断を下した神達の厳しい判断には考えさせられる。

『千と千尋の神隠し』2001年 日本 監督 脚本 原作：宮崎駿 音楽：久石譲 出演：柊瑠美 入野自由 夏木マリ 我修院達也 神木隆之介

日本の神々のお話だが《異形の神々》は世界にいる《神々》にどこか似ている。人間の持っている【神】という概念が世界と同じというのはとても面白い。

コラム 《本音》が見えにくくなる時代 後編

悪意を持って人を動かそうとする人間は実に狡猾。日本人は、それをわからないから損ばかりしてきたところもある。それを考えると他国など、昔から振り回された経験があるから、一般国民もへいい意味で〉狡猾に行動するのだ。

今や、普通の人の軽いSNS上の発言でも人を動かせる時代で、話題になった《保育園落ちた日本死ね！》がいい例だ。しかし、この発言も取り上げた議員の【自作自演】では？との噂もあったが事実はわからない。

難しいのは、SNSの発言でも、確信をついている事もあるからで、SNSが盛況なのは、周辺の人達と《簡単に本音》を語るのが苦手な日本人らしいともいえる。

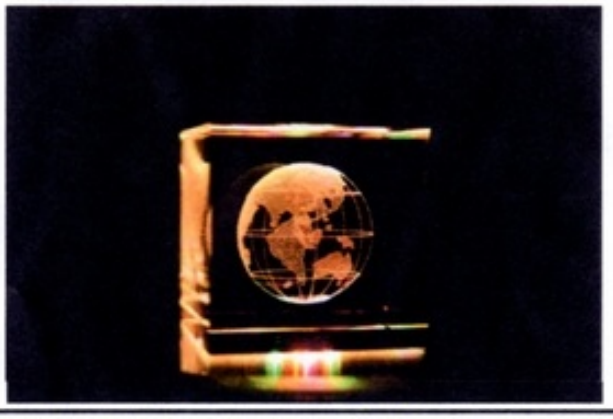
一方、その特性を生かし、《簡単に本音》を語っているよう見せて人を動かそうとする人は、大いにSNSを利用する。128号で書いた方法論を使うには、実に有効な手段の一つなのだ。

そういう人達を打破するのは、事実しかないのだが、その事実をも捻じ曲げる為に「自分に都合のいい物差し」を使い批判をかわす、それに対して極端なSNS発言がされ、ますます混乱…。と、結局、SNS上に「ちょうどいい物差し」があるのだろうか？と考えてしまう。

また、SNS上での【騒動】は、あくまでSNSでの事であり、はたしてこれが《本音》なのだろうか？と計りかねる事も多く、計算しつくした《本音》だとすれば、はたして本当の《本音》なのだろうかとも思う。

おかげで、本当の《本音》が見えにくい。ネット社会は両者の意見を聞く場にはまだなっていないのでしょうね。

終。



☆【最近のこれはお見事！】は見事な映画の題名の紹介、反して【最近のこれはまずいぞ！】は「これは、まずいぞ！」と思う題名を紹介しています。

on air !

CS・BS放送のオススメ映画を紹介します！

CS・BSのオンエア時間は変更になる場合もあります。m(_ _)m

『オーメン』

スターチャンネル

1976年 アメリカ

監督:リチャード・ドナー

音楽:ジェリー・ゴールドスミス

出演:グレゴリー・ペック リー・レミック ハーベイ・スティーブンス

9月10日（日）14:50 【チャンネル2】

イタリア・ローマ。６月６日午前６時。アメリカの外交官ロバート・ソーンの妻・キャサリンが男の子を出産したが死産だった。妻がショックを受けると思い、病院に居合わせた神父のすすめに従い、同時刻に生まれたが母親が死んだ男の子を引き取る事にする。

名前はダミアン。病院にも診察してもらう事もなくスクスクと育ったダミアンを、夫婦はこよなく愛した。ところが、ダミアンの５才の誕生日。突然、乳母が自殺。それをきっかけに、ダミアンの周辺では奇怪な事が起こり始める。そしてある日、ダミアン達の写真を撮っていたジェニングスが現れ、奇妙な事実をロバートに告げる…。

これこそ《驚愕のラスト》で世界中のキリスト教信者を怯えさせた映画。

一方、日本では次々と起こる殺しの【エグさ】に観客が増え、それもどうかなと思ったが。

『ディープ・インパクト』

ザ・シネマ

1998年 アメリカ

製作:スティーヴン・スピルバーグ リチャード・D・ザナック デヴィッド・ブラウン

監督:ミミ・レダー

出演:ロバート・デュヴァル ティア・レオーニ イライジャ・ウッド ヴァネッサ・レッドグレイヴ マクシミリアン・シェル

9月11日（月）21:00

天文マニアの高校生・レオは、ある日巨大彗星を発見し、天文台のウルフ博士に報告する。そこで博士が計算すると、なんと、その彗星は地球と衝突する事が判明。驚いて政府に報告するため車を走らせるが、なんと交通事故で死んでしまう。

１年後。テレビレポーター・ジェニーは、政府高官の辞任を追ううちに、とんでもない秘密を知る。それは一年後彗星が地球に衝突するというものだった。そして、二日後アメリカ大統領から発表され、それと同時に衝突を回避するべく、彗星に核爆弾を埋め込み爆破させ、軌道をそらす【メサイア計画】も発表された。計画は実行され核を爆発させたが、そらす事もできず大小二つの彗星に分裂してしまう…。失敗は発表され、世界は大パニックになり…。

先日起こった《太陽フレア》の発生などを考えると、この映画のような事も起こりかねない。

しかし今、彗星に核爆弾をぶち込むなど、世界中で協力できるかと思うと…(;^_^A。

『リトル・マーメイド』

1989年 アメリカ

監督 脚本：ジョン・マスカー ロン・クレメンツ

原作：ハンス・クリスチャン・アンデルセン

出演：ジョディ・ベンソン サミュエル・E・ライト パット・キャロル パティ・ハゲット

海底王国の王トリトンの16歳になる末っ子・アリエルは、何事にも興味津々。いつも沈没船の宝探しを楽しんでいた。

ある日、地上へのあこがれから、父に黙って海の上をのぞいたところ嵐で転覆し、遭難した王子・エリックを助ける。そこで、アリエルはエリックにひとめぼれしてしまう。

そんなアリエルを、父のトリトン・姉妹達・執事のセバスチャン達が心配する。アリエルも恋心を抑える事ができずにいた。

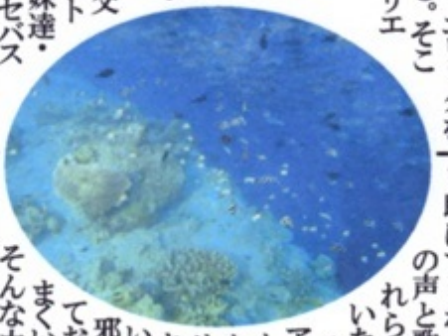
そんなアリエルに目を付けたのが、海の魔女アースラ。巧みに近づき、「三日間人間にする」代わりに、アリエルの声を奪う提案をする。もし、その間に王子・エリックとキスをしなければアリエルはアースラの捕らわれの身となるのだ。

アリエルは契約を交わし、エリックの住むお城へ入る。しかし、言葉もしゃべれず歌も唄えないアリエルを、エリックは遭難した時に助けてくれた人とは気がつかない。実は、エリックも助けてくれた女の子の声と歌を忘れられずにいたのだ。

その上、アースラもエリックとアリエルがキスしないように邪魔をしており、うまくいかない。

そんな中でも二人が接近しだした時焦ったアースラはある悪だくみを実行する…。

挿入歌「アンダー・ザ・シー」(サミュエル・E・ライト)は、第62回アカデミー賞で歌曲賞を受けている名曲。この曲のように思わず踊りだしたくなる曲が日本映画では楽しめないのが残念だ。



Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie

☆読んで頂いてありがとうございました。よろしかったらコメントでご感想・お叱りお聞かせください。よろしくお願いします！m(_ _)m 貴樹諒音

☆次回発行は9月22日です。

【編集後記】

☆《日本では呑気にしているが、今ロケットの脅威にさらされている》と前号で書いたが、まだその脅威は解決していない。混乱しており、解決時期もわからない。また、天気予報も当たらず、干し物やらいつまでもすっきりしない。気なのやらいまだら呑いころは危機感のないと妙に感心する本人らしいなのでした。

シネマズライフ130号

✕ 発行人：貴樹諒音 ✕

発行日：2017年９月８日

cinemaz-life@movie.nifty.jp

✕ 告知ブログ ✕

http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/

皆さまご無事で！

シネマズライフーcinemaz-lifeー １３０号

http://p.booklog.jp/users/rion-takagi
著者：貴樹 諒音
メールアドレス **cinemaz-life@movie.nifty.jp**
著者紹介ブログ 『明後日の憂鬱』
http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/2012/01/post-bcc7.html

【写真素材-フォトライブラリー】
の画像を使わせてもらっています。

《スターチャンネル》
『オーメン』
《ザ・シネマ》
『ディープ・インパクト』

映画の感想は現在・下記のサイトにアップしています。
ぜひ、ご覧くださいませ。

Yahoo!映画
rion_takagiのMyムービー
https://movies.yahoo.co.jp/my/profile-g.uFIUaEfCFw6D1cq3gb5A--/

※＆ 他にもいろいろやってます。**(^^;)** ※＆
お世話になっているインターネットＴＶ
netchannel KYO

『オススメ犬映画』
http://www.pet-c.net/column/movie/index.php
犬の映画を紹介してます。

§※§※§※